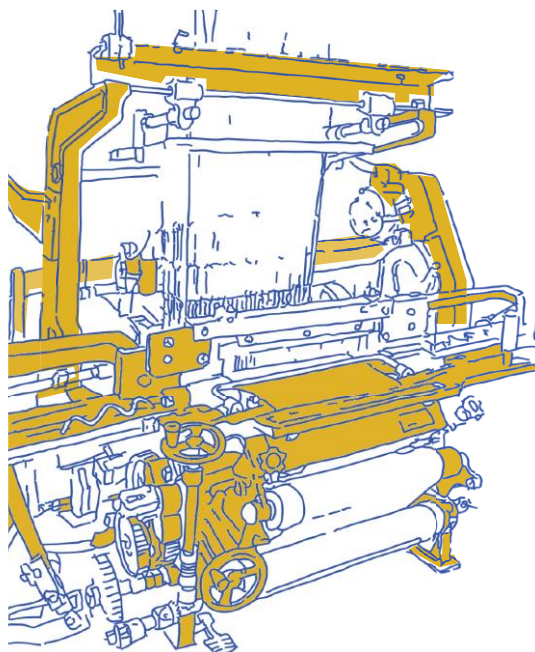
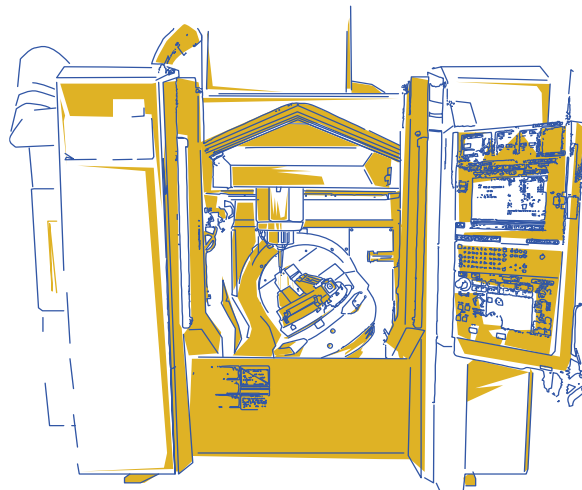
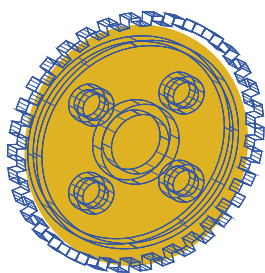
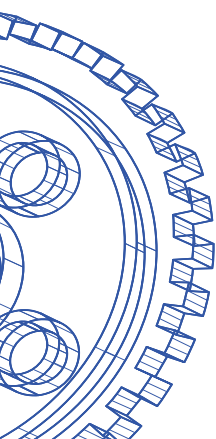
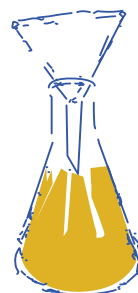
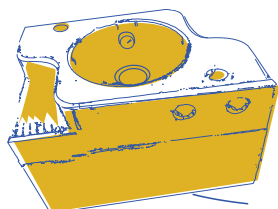
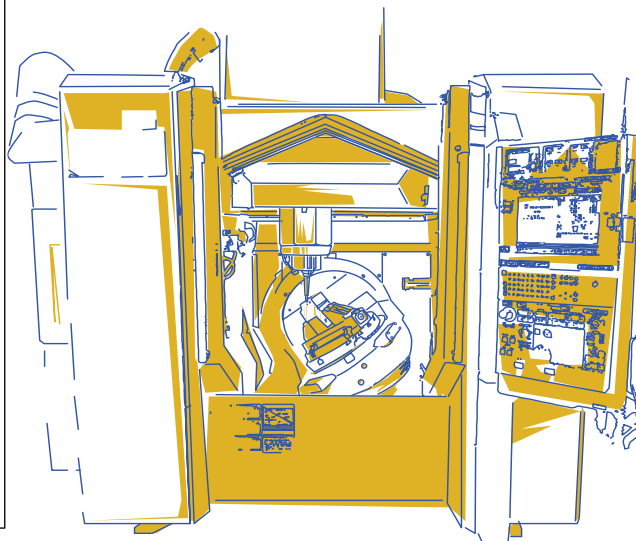
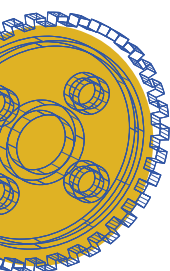
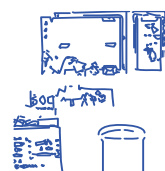
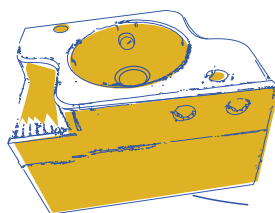


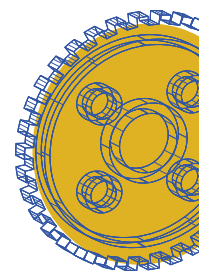


令和7年度 業務概要報告書



京都府 織物・機械金属 振興センター

URL: <https://www.pref.kyoto.jp/oriki/>



目 次

第 1	京都府織物・機械金属振興センターの概要	1
1	所在地	1
2	施設	1
3	機構と業務内容	2
4	数値目標の達成状況	3
5	過去 5 年間の利用状況実績	4
第 2	技術振興対策	5
1	技術支援	5
	(1) 技術相談	
	(2) 依頼試験	
	(3) 機器貸付	
	(4) 新規導入機器	
2	新技術研究	15
	(1) 新技術研究開発	
	(2) 保有特許一覧	
	(3) 展示会出展・学会発表・論文寄稿等一覧	
3	現行織機及び次世代織機への取組	17
4	技術改善指導等	17
	(1) 技術改善指導	
	ア 織物・機械金属等巡回支援事業	
	イ 人権教育・啓発活動支援委託事業うち、巡回相談事業	
	(2) 染色技術相談日の開設	
5	団体等との連携、支援	19
	(1) 丹後テキスタイル・テクノ	
	(2) 丹織技術研究会	
	(3) 丹後ええもん工房	

第 3 産業活性化支援対策	21
1 人材の育成	21
(1) 研修・講習会	
(2) 公益財団法人京都産業 21 との連携	
(3) 丹後織物工業組合等関係団体との連携	
(4) 丹後機械工業協同組合との連携	
(5) TANGO 子ども未来プロジェクト推進協議会との連携	
(6) 高校の実習受入	
(7) 丹後地域加工食品品質向上連絡会での活動	
(8) 大学との連携	
(9) オンライン見学会の実施	
2 産業活性化事業	26
(1) 京都府伝統産業生産基盤支援事業費補助金	
(2) 機料品調達連絡協議会	
(3) 丹後機械金属業振興推進チーム	
(4) 宇宙ビジネス参入研究会	
(5) 丹後ものづくり産業共創プロジェクト (T・MIC)	
3 情報の提供、発信	27
(1) メールマガジン	
(2) ホームページでの発信	
(3) SNS (Facebook、Instagram、YouTube) での発信	
(4) 出前授業・所内見学の受入	
(5) 北近畿経済新聞への研究成果掲載	
(6) 新聞各社への記者発表及び掲載実績	
(7) メディアへの出演	
第 4 創立 120 周年記念事業	29
おわりに	30
1 令和 7 年度丹後地域産業の状況	30
2 令和 7 年度当センターの取り組みについて	32
沿革	34

第 1 京都府織物・機械金属振興センターの概要

1 所在地

京都府京丹後市峰山町荒山 225 番地（丹後・知恵のものづくりパーク内）

2 施 設

建物	延 面 積	4,183.51 m ²
A 棟	延 面 積	1,322.03 m ²
B 棟	延 面 積	2,582.65 m ²
附属建物（物置・倉庫・車庫等）		
	延 面 積	278.83 m ²

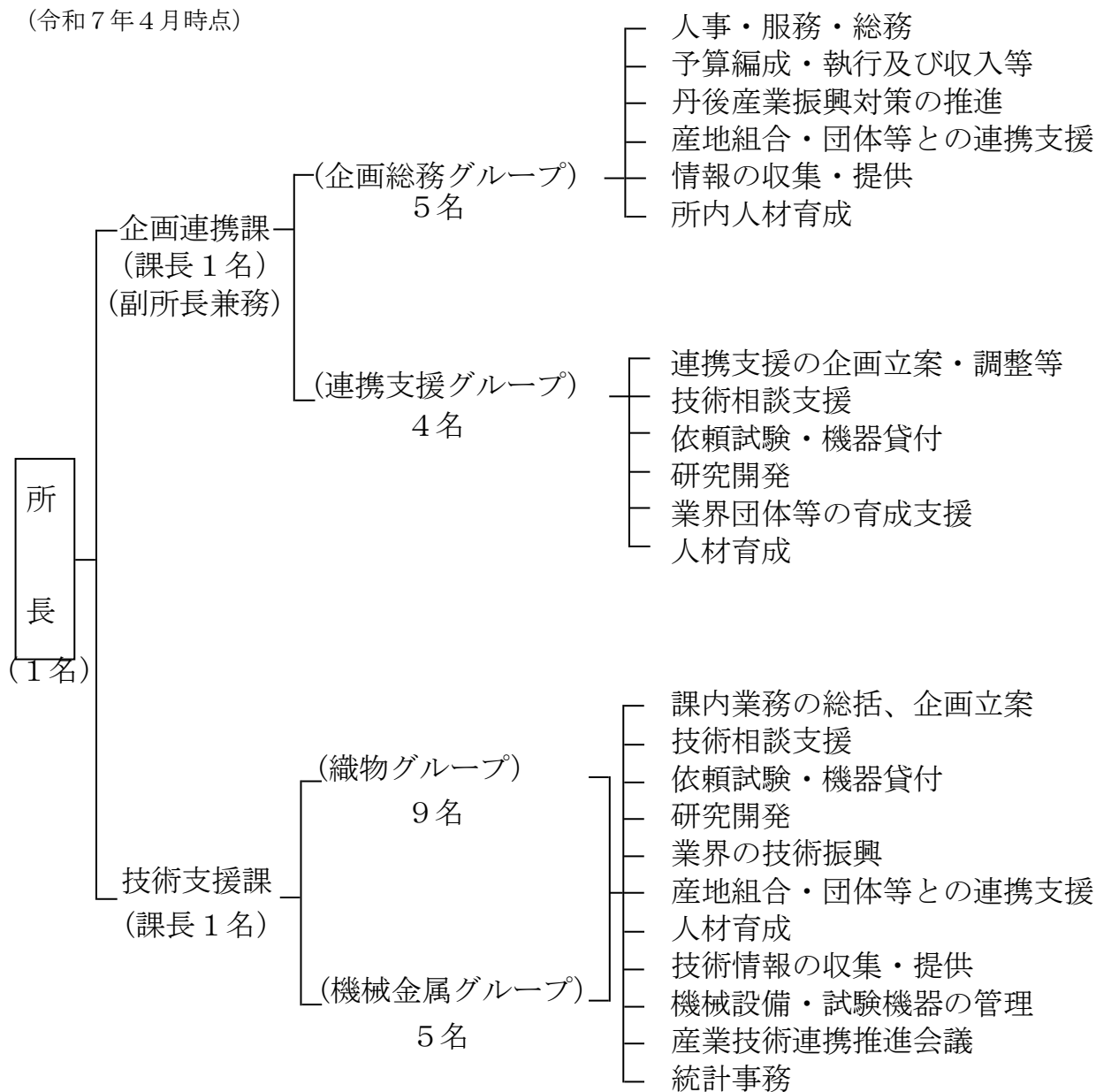
※公益財団法人京都産業 21 から A 棟・B 棟の一部を事務所として使用貸借

丹後・知恵のものづくりパークの全体概要

- 敷地面積 35,466.22 m²
建物延べ面積 10,933.51 m²（A 棟、B 棟、C 棟、D 棟、E 棟、附属建物ほか）
- 施設の目的
京都府北部地域のものづくり人材の育成や、新たな産業の振興と中小企業の総合支援を行うための拠点施設
- ゾーニング
 - ① トレーニングゾーン
（基礎から応用に至る人材育成のための研修スペース：B 棟 1 階、C 棟）
 - ② トライアルゾーン
（地元企業が新分野に進出するための事業活動スペース：C 棟、D 棟、E 棟）
 - ③ サポートゾーン
（経営・技術一体の総合支援のためのスペース：A 棟、B 棟 1 階）
 - ④ コラボレーションゾーン
（人材育成、新産業創出のための研修、交流スペース：B 棟 2 階）
- 施設の整備
京都府・京丹後市・公益財団法人京都産業 21 が、日本電産株式会社（現ニデック株式会社）旧峰山工場を活用し共同で整備し、平成 20 年 10 月 23 日にグランドオープン
- 施設の運営
公益財団法人京都産業 21 が日本電産株式会社（現ニデック株式会社）から賃借し、施設全体を管理・運営

3 機構と業務内容

職員総数 26 名
(令和 7 年 4 月時点)



4 数値目標の達成状況

項目		目標値	年間実績	達成状況
技術相談件数	織 物 機械金属 連携支援	5,270	5,715	105%
		3,700	3,345	90%
		700	1,040	149%
		870	1,330	132%
依頼試験件数	織 物 機械金属 連携支援	3,030	3,021	100%
		2,800	2,820	101%
		30	6	20%
		200	195	98%
機器貸付件数	織 物 機械金属 連携支援	1,950	2,513	129%
		800	1,165	146%
		1,100	1,281	116%
		50	67	134%
企業訪問件数	織 物 機械金属 連携支援	320	400	125%
		170	170	100%
		80	143	179%
		70	87	124%
研修会・セミナー 参加人数	織 物 機械金属 連携支援	950	782	82%
		500	502	100%
		400	246	62%
		50	34	68%
SNS リーチ数	 	14,000	22,297	159%
		11,800	17,856	151%
		2,200	4,441	202%

5 過去5年間の利用状況実績

		令和7年度	令和6年度	令和5年度	令和4年度	令和3年度
		5,715	4,927	4,653	4,800	4,950
技術相談件数	織物	3,345	3,680	3,613	3,283	3,849
	機械金属	1,040	753	335	387	369
	連携支援	1,330	494	705	1,130	732
		3,021	3,553	2,989	2,976	1,830
依頼試験件数	織物	2,820	3,463	2,792	2,665	1,655
	機械金属	6				
	連携支援	195	90	197	331	175
		2,513	2,611	2,151	1,800	1,765
機器貸付件数	織物	1,165	1,493	1,074	604	861
	機械金属	1,281	1,081	1,049	1,157	857
	連携支援	67	37	28	39	47
		400	277	201	250	214
企業訪問件数	織物	170	111	133	198	170
	機械金属	143	92	32	41	38
	連携支援	87	74	36	11	6
		782	1,442	1,070	958	740
研修会・セミナー 参加人数	織物	502	559	512	616	470
	機械金属	246	846	526	331	250
	連携支援	34	37	32	11	20
		22,297	13,331	5,614		
SNS リーチ数	Facebook	17,856	11,278	5,026		
	Instagram	4,441	2,053	588		

第2 技術振興対策

1 技術支援

(1) 技術相談

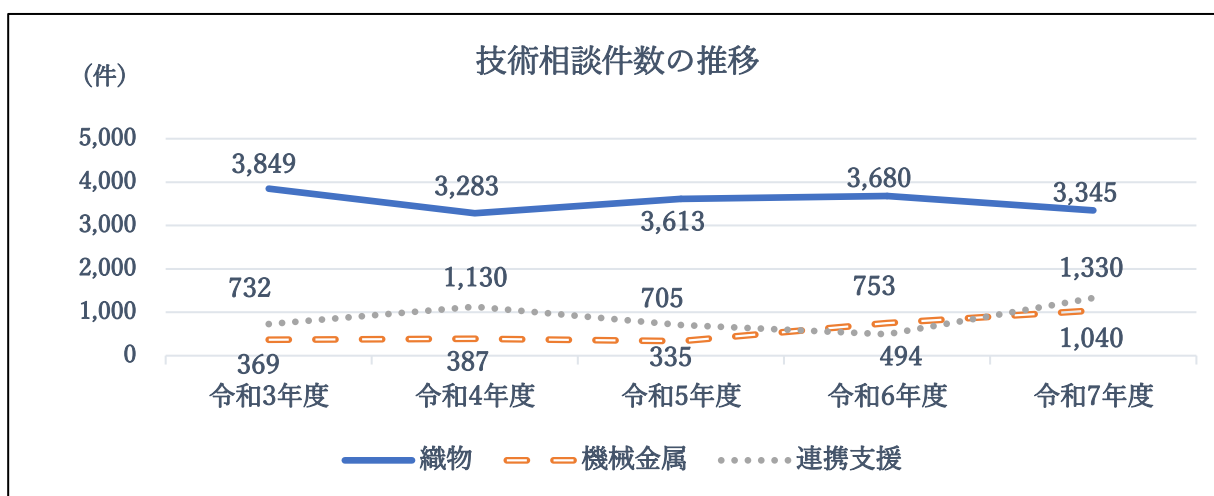
技術相談件数 5,715 件

○ 過去実績

(単位：件)

令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
4,950	4,800	4,653	4,927	5,715

○ 技術相談件数の推移



○ 技術相談件数実績は、次表のとおりである。(令和8年3月末現在)

(織物) 技術相談内容別件数

(単位：件)

区分内容	令和7年度	構成比(%)	前年度比(%)
織物設計	487	14.6	129.2
製織準備	490	14.6	101.7
撚糸技術	124	3.7	111.7
製織技術	321	9.6	133.2
繊維物性	375	11.2	53.9
製品難点	113	3.4	52.3
精練染色加工	440	13.2	112.0
デザイン	83	2.5	51.9
人材育成	440	13.2	105.8
ブランド振興事業	27	0.8	62.8
研究会等	198	5.9	89.2
補助事業	47	1.4	117.5
その他	200	6.0	70.7

合計	3,345	100.0	90.9
----	-------	-------	------

- ・織物設計： クリエイター・イン・レジデンス（欧州インテリア市場への展開）事業に係る技術移転及びマーチンデル摩耗試験、新規織物素材の開発、織物分解成績書のデジタルアーカイブ研究に関する相談件数が増加
- ・製織技術： 織機停止装置の開発、機料品の入手、京都府立丹後郷土資料館の収蔵品の調査・復元に関する相談件数が増加
- ・繊維物性： 特許「空気の流れ検知装置ならびにそれを用いた映像・音響システム（特許第7359351号）」の実用化に向けた取組が減少
- ・製品難点： 夏物着尺地の染着異常、草木染め帯揚げ地の染故障等の相談件数が減少（製品難点は、相談件数全体の3%を占めた。平成23（2011）年度は30%、平成28（2016）年度は13%、令和3（2021）年度は7%であり、年々減少傾向にある。）
- ・デザイン： 染色デザインや、デザインソフトの使用方法に関する相談件数が減少

（機械金属） 技術相談内容別件数 （単位：件）

区分内容	令和7年度	構成比(%)	前年度比(%)
機械	308	29.6	149.5
金属材料	37	3.6	205.6
非金属材料	65	6.3	92.9
電気・電子	32	3.1	152.4
生産管理	42	4.0	381.8
人材育成	423	40.7	157.2
設計・デザイン	78	7.5	159.2
軽易な問い合わせ	12	1.2	27.9
その他	43	4.1	65.2
合計	1,040	100	138.1

- ・機械：宇宙分野の情報連絡等を活発に行った結果に伴う増加
- ・金属材料：X線CTや粘弾性測定装置の利用増加に伴い件数が増加
- ・電気・電子、生産管理：研究開発したIoT技術の企業転移等による件数増加
- ・人材育成：機械金属業の宇宙分野進出に向けた取り組みの継続による件数増加
- ・設計・デザイン：CAD/CAMや3Dプリンタの利用相談に伴う件数の増加

（連携支援・企画総務） 技術相談内容別件数 （単位：件）

区分内容	令和7年度	構成比(%)	前年度比(%)
繊維鑑別	10	0.8	100.0
油脂分試験	8	0.6	26.7
化学分析等	38	2.9	135.7
機器分析等	254	19.1	379.1
化学試験等	210	15.8	338.7
加工試験等	35	2.6	145.8

食品製造加工等	336	25.3	1050.0
環境・省エネ	0	0.0	－
IT 関連	0	0.0	－
産学公連携	104	7.8	650.0
人材育成	8	0.6	266.7
技術情報	111	8.3	555.0
ええもん工房	25	1.9	833.3
補助金	107	8.0	111.5
その他	84	6.3	81.6
合計	1,330	100.0	269.2

- ・油脂分試験：油脂分含有量試験に伴う相談が減少
- ・機器分析：依頼試験及び機器貸付の利用に伴う相談が増加
- ・化学試験：染色堅ろう度試験の利用に伴う相談が増加
- ・食品製造加工：新規導入した水分活性測定装置及び巡回支援事業に係る相談が増加
- ・産学公連携：大学連携、また、次年度事業の新企画に係る相談が増加
- ・人材育成：研修に係る相談が増加
- ・技術情報：研究開発に係る相談が増加

(2) 依頼試験

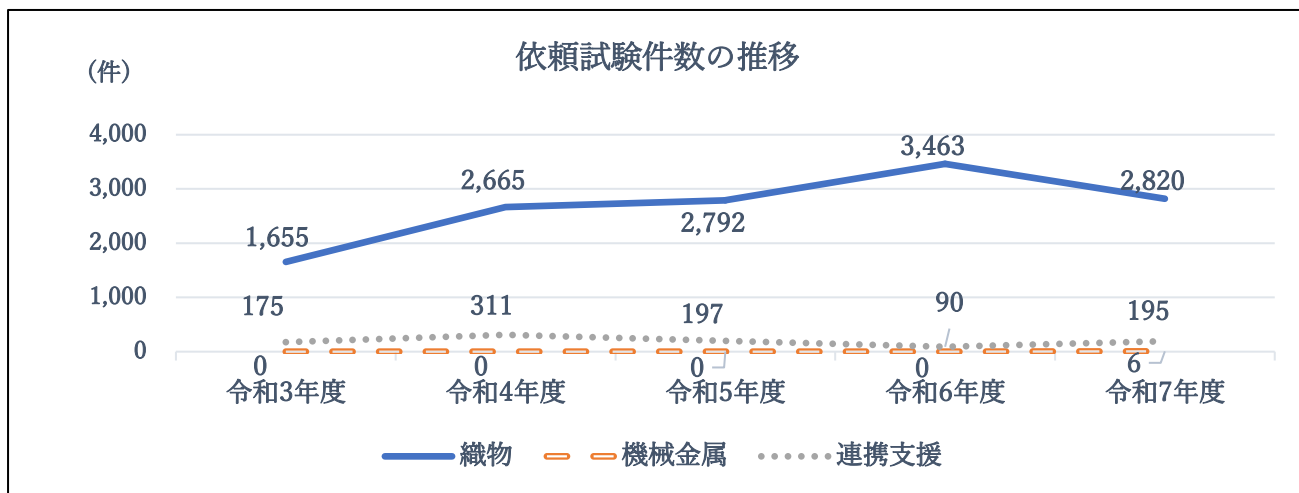
依頼試験件数 **3,021 件**

○ 過去実績

(単位：件)

令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
1,830	2,976	2,989	3,553	3,021

○ 依頼試験件数の推移



○ 依頼試験件数実績は、次表のとおりである。(令和8年3月末現在)

(織物) 依頼試験項目別件数

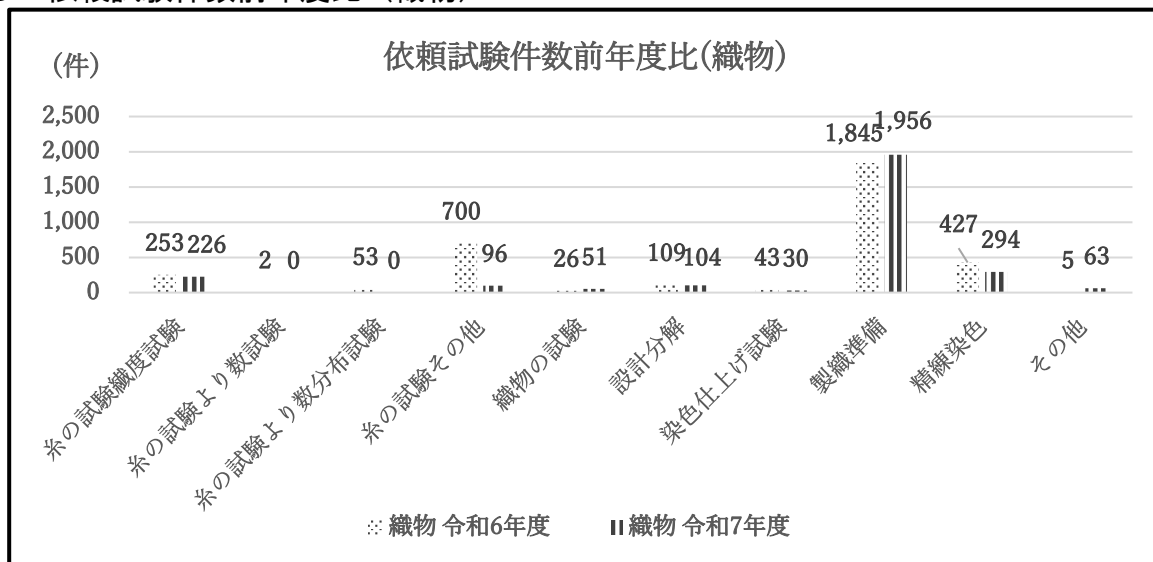
(単位：件)

区分項目		令和7年度		構成比(%)	前年度比(%)
糸の試験	織度試験	226		8.0	89.3
	より数試験	0		0.0	皆減
	より数分布試験	0	0	0.0	皆減
	その他	96		3.4	13.7
織物の試験		51		1.8	196.2
設計分解		104		3.7	95.4
染色仕上げ試験		30		1.1	69.8
製織準備		66	1,956	69.4	106.0
精練染色		142	294	10.4	68.9
その他		63		2.2	1260.0
合計		778	2,820	100.0	81.4

*左は依頼件数、右は試験件数で計算

- ・製織準備： サンプル整経に係る依頼試験が、全体の69%を占める
- ・織物の試験： リネンサプライ製品の耐久性に関する依頼試験が一時的に増加
- ・糸の試験（その他）： 昨年度に受けた文化財復元に係る撚糸の依頼試験が皆減
- ・精練染色： クッションカバーの試作、小学生のオリジナルちりめんグッズの試作、生地30回洗濯後の評価に係る依頼試験が減少

○ 依頼試験件数前年度比（織物）



(機械金属) 依頼試験項目別件数

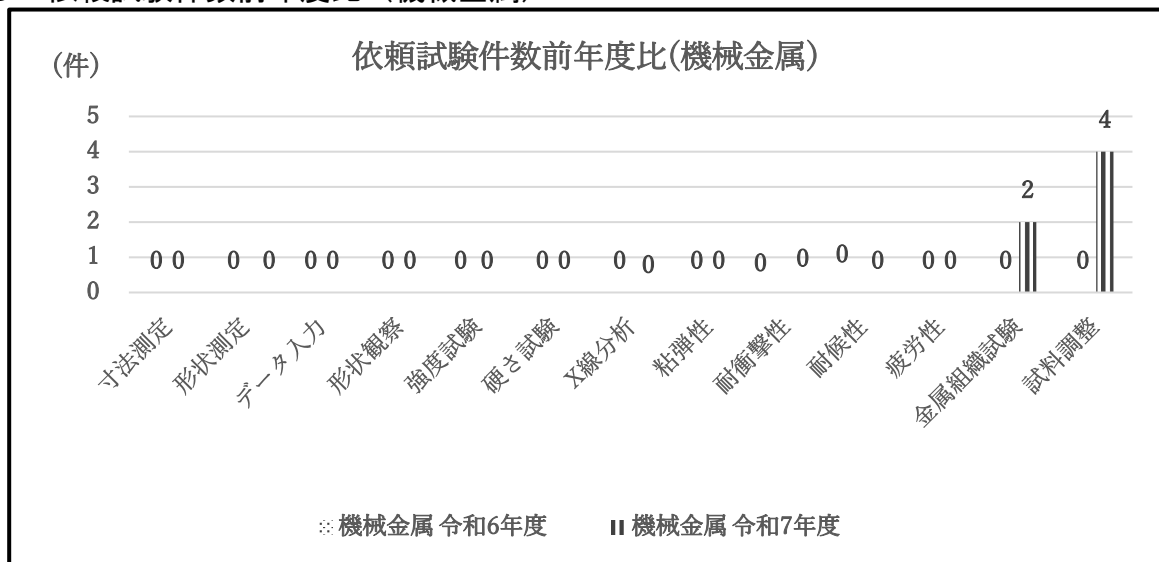
(単位：件)

区分項目	令和7年度	構成比(%)	前年度比(%)
寸法測定	0	0.0	－
形状測定	0	0.0	－
データ入力	0	0.0	－
形状観察	0	0.0	－
強度試験	0	0.0	－

硬さ試験	0	0.0	－
X線分析	0	0.0	－
粘弾性	0	0.0	－
耐衝撃性	0	0.0	－
耐候性	0	0.0	－
疲労性	0	0.0	－
金属組織試験	2	33.3	皆増
試料調整	4	66.7	皆増
合計	6	100.0	皆増

- ・機械金属関連の加工物に関する測定・分析等については、職員の操作支援のもと地域企業自身で測定等を行っているため、機器の利用実績は貸付に集計されている。
- ・金属組織試験・試料調整：令和7年度から、金属観察や測定前の前処理となる「試料片の作成等」について依頼試験項目として追加した。

○ 依頼試験件数前年度比（機械金属）



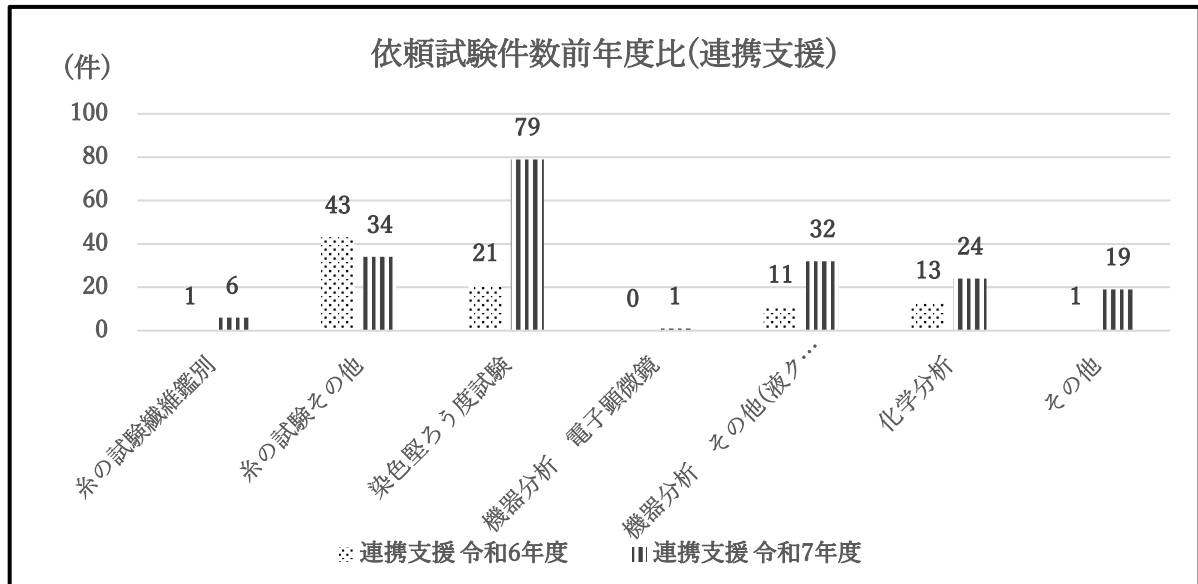
(連携支援) 依頼試験項目別件数 (単位：件)

区分項目		令和7年度	構成比(%)	前年度比(%)
糸の試験	繊維鑑別	6	3.1	600.0
	その他	34	17.4	79.1
染色堅ろう度試験		79	40.5	376.2
機器分析	電子顕微鏡	1	0.5	皆増
	その他(液クロ・蛍光X線等)	32	16.4	290.9
化学分析		24	12.3	184.6
その他		19	9.7	1900.0
合計		195	100.0	216.7

- ・染色堅ろう度試験：洗濯試験及び摩擦試験が増加

- ・その他(液クロ・蛍光X線等)：色彩測定試験が増加
- ・化学分析：灰分試験が増加
- ・その他：水分活性測定試験及び抗菌試験が増加

○ 依頼試験件数前年度比（連携支援）



(3) 機器貸付

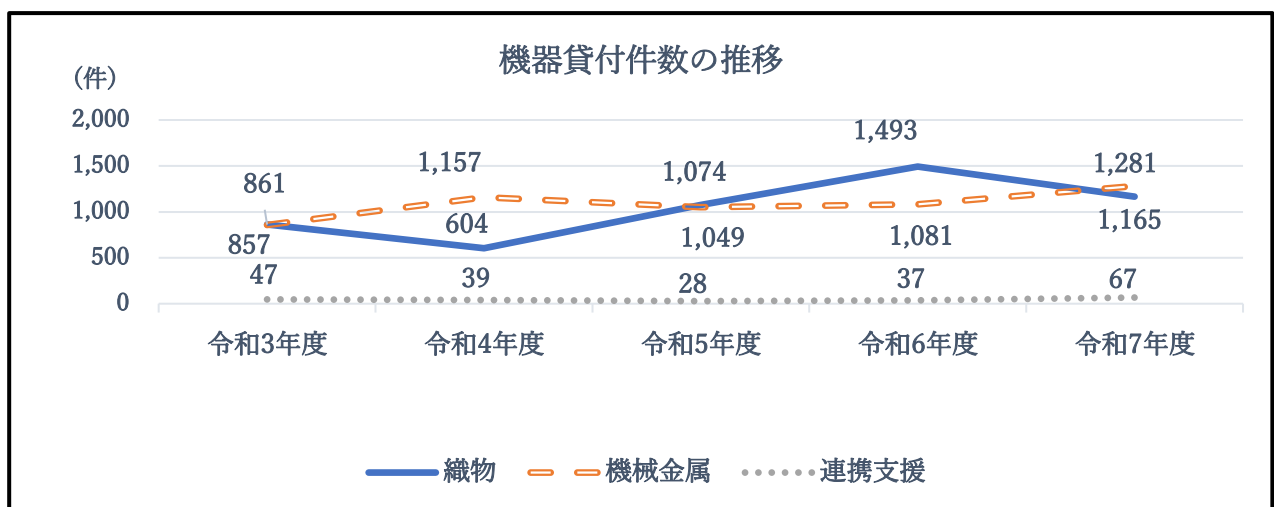
機器貸付件数 2,513 件

○ 過去実績

(単位：件)

令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
1,765	1,800	2,151	2,611	2,513

○ 機器貸付件数の推移



○ 機器貸付実績は、次表のとおりである。（令和8年3月末現在）

(織物) 機器貸付項目別件数 (当センター所有の機器を企業が直接利用) (単位: 件)

区分項目	令和7年度	構成比(%)	前年度比(%)
コーンワインダー	5	0.4	22.7
ソフトワインダー	68	5.8	113.3
パーンワインダー	0	0.0	-
合糸機	24	2.1	66.7
ローラーのりづけ機	16	1.4	35.6
八丁撚糸機	343	29.4	63.2
イタリー撚糸機	4	0.3	400.0
カバーリング撚糸機	67	5.8	89.3
合撚機	86	7.4	150.9
ダブルツイスター	0	0.0	-
糸繰機	105	9.0	72.9
かせ揚げ機	43	3.7	64.2
上管巻機	25	2.1	104.2
整経機	0	0.0	-
サンプル整経機	126	10.8	90.0
小幅力織機	60	5.2	125.0
広幅力織機	0	0.0	皆減
テキスタイルデザインシステム	0	0.0	皆減
インクジェット捺染機	4	0.3	200.0
真空スチームセット機	0	0.0	-
大型送風乾燥機	0	0.0	-
緯煮槽	30	2.6	107.1
下管巻機	57	4.9	54.3
アレンジワインダー	0	0.0	皆減
テキスタイルオートサンプル織機	0	0.0	-
無判プリントシステム前処理機	4	0.3	皆増
アパレル CAD システム	0	0.0	皆減
スキャナ	2	0.2	50.0
型紙カッティングプロッタ	0	0.0	皆減
職業用高速直線ミシン	26	2.2	185.7
職業用皮革・厚物ミシン	0	0.0	皆減
ロックミシン	4	0.3	200.0
アイロン	0	0.0	-
シルクスクリーン製版機	7	0.6	140.0
スクリーン型乾燥機	22	1.9	220.0

コンプレッサー	10	0.9	200.0
マーチンデール摩耗試験機	0	0.0	－
風合い自動計測システム	0	0.0	皆減
糸摩擦抱合力試験機	13	1.1	皆増
ゴム・プラスチック硬度計（デュロメータ）	0	0.0	－
騒音計	14	1.2	87.5
生糸検査システム	0	0.0	－
合計	1,165	100.0	78.0

- ・合撚機： ストール、靴、シフォン生地を試作による貸付が増加
- ・小幅力織機： 新規織物素材の開発に係る貸付が増加
- ・糸摩擦抱合力試験機： 自社で製造した糸の性能評価による貸付が増加
- ・八丁撚糸機、下管巻機： 昨年度から継続実施した当センターの技術移転による生地試作が減少

（機械金属） 機器貸付項目別件数（当センター所有の機器を企業が直接利用）（単位：件）

区分項目	令和7年度	構成比(%)	前年度比(%)
3次元 CAD/CAM システム	0	0.0	－
CAE 切削シミュレーションシステム	0	0.0	－
3D プリンタ（インクジェット方式）	0	0.0	－
サポート材除去装置	0	0.0	－
仮想空間(VR)対応 CAD 閲覧システム	0	0.0	－
3D プリンタ(FFF 方式)	40	3.1	皆増
工作機械精度測定システム	5	0.4	23.8
旋盤用アタッチメント	0	0.0	－
工作機械テストバー	0	0.0	－
精密レーザー計測システム	0	0.0	－
表面粗さ測定機/輪郭形状測定機	3	0.2	75.0
高性能高さ測定機	910	71.0	108.3
デジタルマイクロスコープ	0	0.0	皆減
CNC 三次元測定機	49	3.8	98.0
三次元測定機用プローブ自動交換装置	48	3.7	96.0
高精度 CNC 三次元測定機	1	0.1	25.0
三次元測定機用ラインレーザプローブ	0	0.0	皆減
データ解析装置	0	0.0	皆減
測定顕微鏡	0	0.0	皆減
超音波探傷映像化装置	1	0.1	50.0

超音波探傷映像化装置 局所探傷用ユニット	0	0.0	-
赤外線サーモグラフィー	1	0.1	皆増
マイクロフォーカス X 線 CT システム	67	5.2	216.1
三次元測定機性能評価用セット	4	0.3	皆増
万能材料試験機(金属材料試験用)	0	0.0	-
万能材料試験機(FRP 材料試験用)	2	0.2	200.0
疲労試験機	0	0.0	-
衝撃試験機	0	0.0	皆減
耐候性試験機	0	0.0	-
粘弾性測定装置	130	10.1	342.1
金属顕微鏡	0	0.0	皆減
ロックウェル硬度計	4	0.3	400.0
全自動マイクロビッカーズ硬度計	3	0.2	皆増
ブリネル硬さ試験機	0	0.0	-
ホットプレス機	3	0.2	皆増
試料切断機	0	0.0	-
NC 旋盤	0	0.0	皆減
汎用旋盤	10	0.8	皆増
汎用フライス盤	0	0.0	-
平面研削盤	0	0.0	皆減
ワイヤカット放電加工機	0	0.0	-
3 軸制御立形マシニングセンタ	0	0.0	皆減
5 軸制御立形マシニングセンタ	0	0.0	-
卓上大型マッフル炉	0	0.0	-
プログラマブル・ロジック・コントローラ 及び付属機器	0	0.0	-
樹脂混合装置	0	0.0	-
デジタルトルクレンチ	0	0.0	-
工作機械危険操作疑似体験システム	0	0.0	-
合計	1,281	100.0	118.5

- ・ 3D プリンタ：機械金属業界外の試作開発協力に伴い機器利用が増加
- ・ マイクロフォーカス X 線 CT：社内プロジェクトによる工具試作での機器利用が増加
- ・ 粘弾性測定装置：シミュレーション用データ取得のため材質観察の機器利用が増加

(連携支援) 機器貸付項目別件数（当センター所有の機器を企業が直接利用）（単位：件）

区分項目	令和 7 年度	構成比 (%)	前年度比 (%)
粒度分布測定装置	0	0.0	-

ICP 発光分光分析装置	0	0.0	－
液体クロマトグラフ	0	0.0	－
高速液体クロマトグラフ	8	11.9	266.7
顕微赤外分光分析システム	16	23.9	228.6
実体顕微鏡	0	0.0	－
pH メーター	0	0.0	－
低温インキュベータ	5	7.5	皆増
分析走査電子顕微鏡	25	37.3	138.9
蛍光 X 線分析装置	1	1.5	25.0
ナノバブル発生装置	0	0.0	－
分光光度計(紫外・可視分光光度計)	7	10.4	140.0
水分活性測定装置	5	7.5	皆増
合計	67	100.0	181.1

- ・ 高速液体クロマトグラフ：特定企業によるたんぱく質を分析するための利用が増加
- ・ 顕微赤外分光分析システム：樹脂を分析するための利用が増加
- ・ 蛍光 X 線分析装置：特定企業による微量金属を分析するための利用が減少

(4) 新規導入機器

機器名称	機器概要
電子天秤	イオナイザーやデータロガー機能を備えた高精度電子天秤。 糸の繊維度試験等に使用する。(最小表示：0.01mg)
塩分計	溶液中の食塩の濃度を測定するために使用する機器。

2 新技術研究

(1) 新技術研究開発

織物・機械金属業界における技術上の諸問題の究明、課題改善に必要な試験研究、新技術の研究開発、新規・新用途の試作開発研究を次のとおり実施した。

また、企業ニーズ、地域ニーズに即応した課題解決型の研究開発を進めるため、外部評価制度（研究開発連絡会議）を設けており、令和8年3月16日に8名の研究開発連絡会議委員による外部評価を実施した。

研究テーマ		概 要	担当課・グループ
1	「空気の流れを検知する丹後ちりめん」の実用化に向けた取組	令和5年10月に京都府が特許を取得した「空気の流れ検知装置ならびにそれを用いた映像・音響システム」について、商空間の演出や建材に関する展示会に出展し、実用化する事業者を開拓した。	技術支援課 織物グループ
2	昭和45年から保存される織物分解成績書のデジタルアーカイブ	当センターに昭和45年から保存される織物分解成績書をスキャンし、AIやOCR等の技術により人が書いた字をデジタル化し、織物設計の変遷や代表的な設計を抽出した。	技術支援課 織物グループ
3	画像生成AIを用いた織物図案の実用性の検証	画像生成AI生成を用いて、意匠図を作成し紋織物を試作した。知的財産（著作権、肖像権）のクリアや、実用性のある図案（柄クセリピート性、審美性等）の作成のために、プロンプト（AIへの指示）の妥当性や図案の再編集方法について研究した。	技術支援課 織物グループ
4	情報処理を活用したシステム構築の検討Ⅳ	地域企業の生産性向上を目指し、IoT化の取組を促すことを目的に試作したIoTシステムを生産現場で検証し、機能改良や課題の抽出を実施した。	技術支援課 機械金属グループ
5	IoTによる難削材切削加工データ収集に関する研究	新分野進出支援に貢献することを目的として、IoTを用いた安価な難削材切削加工の加工データ収集システムの構築を研究した。	技術支援課 機械金属グループ
6	食品の保存に関する技術	外部刺激と食品の色などの関係について研究し、外部刺激による加工食品の色などに対する影響を明らかにした。	企画連携課 連携支援グループ
7	シルクパウダーを用いた機能性材料に関する技術	シルクパウダーを用いた材料の機能について研究することによって、農業や工業などで使用する資材への利用方法を検討した。	企画連携課 連携支援グループ

(2) 保有特許一覧

特許名称	発明者	登録 年月日	消滅予定 年月日	特許の内容	実施契約状況
繊維強化複合体 の製造方法	技術支援課 村山 智之 他 1 名	平成 29 年 7 月 14 日	令和 18 年 3 月 23 日	線状の繊維強化複合体を製造するに際して、専用の特殊な機材や資材を必要とせず、製造コストを従来よりも抑えることができ、かつ要求される多様・複雑な成形形状にも柔軟に対応することが可能な繊維強化複合体を容易且つ適切に製造する方法	
空気の流れ検知 装置並びにそれ を用いた映像・ 音響システム	技術支援課 徳本 幸紘	令和 5 年 10 月 2 日	令和 25 年 2 月 6 日	軽さと伸縮性を有する織物に導電性糸を取り付け、微かな空気の流れを検知する検知装置並びに、その検知装置を用いて、空気の流れを映像、音響として現出させる映像・音響システム	(株)STUDIO KAZ 令和 7 年 8 月 12 日～ 令和 8 年 3 月 31 日

(3) 展示会出展・学会発表・論文寄稿等一覧

名 称	日時・場所	発表者・タイトル	概 要
豊岡市工業会定期総会	令和 7 年 4 月 17 日・豊岡市役所	北川主任研究員、村山主任研究員	府外地域から当センターの依頼試験や機器貸付を利用可能であることについて紹介した。
IVS KYOTO 2025	令和 7 年 7 月 2 日～4 日 京都市勧業館	徳本主任研究員 特許「空気の流れ検知装置並びにそれを用いた映像・音響システム」	左記の特許技術を丹後ちりめんに適用したインスタレーションを出展し、用途拡大を目指した。
京都の万博情報発信拠点 EKIsport KYOTO	令和 7 年 9 月 15 日～17 日 京都駅ビル	田中副所長兼企画連携課長、芦田課長補佐、鈴木副主査、花田主事、中谷技師 徳本主任研究員 特許「空気の流れ検知装置並びにそれを用いた映像・音響システム」	創立 120 周年記念事業や研究成果について紹介した。 左記の特許技術を丹後ちりめんに適用したインスタレーションを出展し、用途拡大を目指した。
こまねこまつり	令和 7 年 9 月 21 日 金刀比羅神社	徳本主任研究員 特許「空気の流れ検知装置並びにそれを用いた映像・音響システム」	左記の特許技術を丹後ちりめんに適用したインスタレーションを出展し、用途拡大を目指した。

産業技術連携推進会議 ナノテクノロジー・材料部会 繊維分科会 令和7年度繊維技術研究会	令和7年10月30日 久留米シティプラザ	吉岡副主査 「織物製造技術のアーカイブ化に向けた取組と活用」	製織に係る準備工程や製織工程の作業を映像化し、当センターのYouTubeチャンネルに公開することで誰でも必要な時に学習できるツール作成の取組を紹介した。
産業技術連携推進会議 ナノテクノロジー・材料部会 繊維分科会 令和7年度近畿地域繊維担当者会議	令和7年11月28日 地方独立行政法人大阪産業技術研究所 森之宮センター	小松副主査 「絹織物の機能性に関する研究」	絹・綿・ポリエステルなどの織物の各種機能性を調査した取組を紹介した。
産業技術連携推進会議 ナノテクノロジー・材料部会 繊維分科会 令和7年度デザイン研究会	令和7年12月4日 丹後・知恵のものづくりパーク	西尾技師 「デザインに関するセンターでの取組紹介」	若者向けの新しい法被など丹後ちりめんの用途拡大に向けたデザイン、AIを用いた商品開発支援、センター120周年記念のロゴデザインプロジェクトの取組を紹介した。
BAMBOO EXPO24	令和7年12月11、12日 東京都立産業貿易センタービル浜松町館	徳本主任研究員 特許「空気の流れ検知装置並びにそれを用いた映像・音響システム」	左記の特許技術を丹後ちりめに適用したインスタレーションを出展し、用途拡大を目指した。
京都ビジネス交流フェア2026「京都発・グローバルニッチ戦略展」	令和8年2月18日～19日 京都パルスプラザ	村山主任研究員、服部主任研究員、鈴木副主査、早川副主査、中谷技師、四方技師、丹治技師 「丹後のものづくりを未来へ飛躍させる技術集団」	地域企業と協力して開発中の食品乾燥機を展示し、また、府海洋センターとの連携による試食会を開催して食品に関する研究について紹介した。
繊維学会誌	2025年10月、第81巻 第10号、通巻第955号	北川主任研究員 「120周年を迎えた京都府織物・機械金属振興センターについて」	当センターが創立120周年を迎えたことを踏まえて、当センターの最新の取り組みについて紹介した。

3 現行織機及び次世代織機への取組

関係機関と連携して、（地独）京都市産業技術研究所が開発中のAI検反装置（パソコンをベースとした織キズ検知システム）と連動する織機停止装置の開発を行った。

4 技術改善指導等

(1) 技術改善指導

生産現場における実態に即応して、各企業が当面する技術的問題の改善と技術水準の向上を図るため、京都府中小企業特別技術指導員及び学界・業界の専門家とともに支援チームを編成し、次のとおり支援を実施した。

技術改善指導件数

11 件

ア 織物・機械金属等巡回支援事業

実施日	実施場所	支援内容	専門家
令和7年6月26日	京丹後市	展示ディスプレイ方法について助言	越智 和子
令和8年3月25日	京丹後市	商品開発のための縫製技術について助言	白敷 持治子

イ 人権教育・啓発活動支援委託事業うち、巡回相談事業

実施日	実施場所	支援内容	専門家
令和7年10月7日	与謝野町	汎用旋盤の使用方法等について助言	大柳 邦夫
令和7年10月21日	京丹後市	異物混入事案の再発防止策について助言	津田 訓範
令和7年10月23日	京丹後市	製織不良の原因究明と改善策の提示	平田 好宣
令和7年10月27日	京丹後市	製織不良の原因究明と改善策の提示	平田 好宣
令和7年11月13日	京丹後市	食品の新商品開発について助言	石伏 穰
令和8年2月2日	京丹後市	製織不良の原因究明と改善策の提示	平田 好宣
令和8年2月25日	与謝野町	新分野進出（宇宙分野）について助言	山北 晃久
令和8年2月25日	与謝野町	商品開発のための縫製技術について助言	白敷 持治子
令和8年2月26日	京丹後市	新分野進出（宇宙分野）について助言	山北 晃久

○ 京都府中小企業特別技術指導員（専門指導分野）

（織物）

氏 名	分 野	氏 名	分 野
西村 太良	（機 織）	平田 好宣	（機 織）
嶋津 澄子	（染 色）	堤 健蔵	（染 色）
朝比奈由起子	（商品企画）	一田 昌利	（蚕糸技術）
和田 忍	（織物技術）	木村 照夫	（複 合 材）
山田 英二	（繊維加工）	白敷 持治子	（デザイン）
長島 孝明	（機 織）		

（機械金属）

氏 名	分 野	氏 名	分 野
大貫 信彦	（新商品開発）	高倉 章雄	（塑性工学）
大柳 邦夫	（切削加工）	西郡 榮	（鍛 造）
井原 之敏	（機械加工）	北村 憲彦	（鍛 造）
山北 晃久	（航空宇宙）	本城 幸之助	（生産技術）
町田 秀和	（電子制御）		

（連携支援）

氏 名	分 野	氏 名	分 野
安達 修二	（食品工学・化学）	石伏 穰	（調理・献立）
津田 訓範	（食品衛生）		

(2) 染色技術相談日の開設

- ・開催日数 年間 49 日
- ・内 容 染色デザイン、染色加工技術に関する相談指導
- ・相談指導者 当センター職員
- ・参加者 延 209 名

5 団体等との連携、支援

(1) 丹後テキスタイル・テクノ※

丹後産地の織機調整技能士 8 名で組織する同団体の研究会及び後継者育成のための織機調整研修に協力した。

研究会開催数	3 回
--------	-----

※平成 3 年度に設立。

○ 講師派遣実績

日 時	研修名	場 所
令和 7 年 11 月 27 日	第 1 回力織機研修	当センター
令和 8 年 3 月 2 日	第 2 回力織機研修	(地独) 京都市産業技術研究所

(2) 丹織技術研究会※

今後のものづくり体制のあり方を検討するため、当センターが試作研究を行った機料品（ピッカー及び通糸）の代替品について、実用化に向けた耐久性評価を実施するとともに、今後枯渇が懸念される機料品や希少となりつつある関連工程人材の実態調査等を行い、産地の生産基盤支援に関する事業に協力した。

※昭和 3 5 年度に設立。

(3) 丹後ええもん工房※

丹後ええもん工房情報発信拠点「丹後の小さな美術館」をアミティ丹後内スペースに整備し、それに係るディスプレイについての勉強会を 1 回開催した。また、「イベント型オープンファクトリー」を開催した。

※平成 1 9 年度に結成。

○ 丹後ええもん工房情報発信拠点「丹後の小さな美術館」の整備

丹後ええもん工房の魅力や製作物のストーリーを多くの人に知ってもらうため、「丹後の小さな美術館」をコンセプトとして、丹後地域の織物を中心とした伝統工芸品や食品等を展示する、情報発信拠点を整備した。

- ・令和 7 年 9 月 13 日オープン
- ・場 所：公益財団法人丹後地域地場産業振興センター（アミティ丹後）内
- ・出展者：9 工房

○ 「丹後の小さな美術館」に係るディスプレイ勉強会

第1回勉強会

- ・開催日 令和7年12月15日
- ・内容 ディスプレイについて
- ・講師 etalagiste 中島 彌生

○ イベント型オープンファクトリー

各工房間の周遊を促すため、「スタンプラリーマップ」を作成し、イベント型オープンファクトリー「丹後ええもん工房探訪スタンプラリー～丹後のものづくりを体験・見学しよう～」を開催した。

- ・実施日：令和7年11月29日（土）、30日（日）
- ・参加者：8工房
- ・参加者：計48名

第3 産業活性化支援対策

1 人材の育成

(1) 研修・講習会

○ 研修参加人数

研修会参加人数	1,307名
(織物研修)	(431名)
(機械金属研修)	(542名)
(連携支援研修)	(334名)

(織物)

(延人数(単位:名))

○ ひとつくりコース				
名 称	開催月日	テ ー マ	講 師	受 講 者
織物基礎【対面方式】	令和7年 5月14日 ～ 6月11日	試験を交えながらの糸の扱い方や 織物製造について	当センター 副主査 吉岡 和真	17
織物基礎【オンライン 方式】	令和7年 6月18日 ～7月2日	織物の製造に必要な知識について	当センター 副主査 吉岡 和真	17
製織準備【整経】	令和7年 9月3日 ～ 9月24日	部分整経機を使用した整経方法に ついて	当センター 主任研究員 新池 昌弘	4
製織準備【たて継ぎ (手つなぎ)】	令和7年 7月10日 ～16日	たて継ぎ(手つなぎ)の作業方法に ついて	当センター 専門幹 荻野 宏子	13
製織準備【たて継ぎ (機械つなぎ)】	令和7年 11月10日	たて継ぎ機を利用した機械つなぎ の作業方法について	職業訓練指導員 塩見 晋	4
製織【基礎】	令和7年 5月22日 ～ 8月28日	糸の扱い方、織機の操作、おり合 わせ等について	当センター 専門幹 荻野 宏子	26
製織【応用】	令和7年 10月30日 ～ 12月17日	織機やジャカードの調整、作業環 境の整備等について	府中小企業特別技術 指導員 平田 好宣	11
織物組織と紋織技術	令和7年 8月26日 ～ 12月23日	織物組織と機拵えの関係、紋デー タ作成方法について	京都職業能力開発短 期大学校 加畑 満久	75
織機調整【シャトル 基礎】	令和7年 9月17日 ～ 11月19日	シャトル織機の調整方法につい て	丹後テキスタイル・ テクノ会員	40

織機調整【レピア基礎】	令和7年 12月11日 ～18日	レピア織機の調整方法について	有限会社藤田機料商店 藤田 和生	9
新商品開発【AI とデジタル捺染】	令和7年 7月17日 ～8月6日	AI によるプリント柄生成やデジタル捺染、販売促進ツールのデザイン手法等について	株式会社エニアック インターナショナル 松川 恵一 INPIT 派遣 弁理士 龍竹 史朗 当センター 技師 西尾 綾香	26
現場実践研修	令和7年 9月29日 ～ 10月30日	企業の現場に赴いた座学、実技の研修	当センター 主任研究員 新池 昌弘	6
現地セミナー	令和7年 11月19日	商品開発、販路開拓、生産基盤の維持・発展に向けて、先進的に取り組んでいる企業等の訪問研修	エイトリボン、北陸 ヤーンフェア 2025	9
織機の分解・組立	令和7年11 月 25 日～ 令和8年1 月 16 日	シャトル織機の分解・組立、調整方法について	府中小企業特別 技術指導員 長島 孝明	20
セミナー「丹後織物産地で考える繊維リサイクル」	令和8年 3月3日 ～3月4日	繊維リサイクルに関する技術動向や実用化事例について	府中小企業特別 技術指導員 木村 照夫	21
小計 15 コース				298
○ ものづくりコース				
名 称	開催月日	テ ー マ	講 師	受 講 者
新商品開発【縫製】	令和7年 10月2日 ～令和8年 2月12日	ファッション製品を試作縫製する知識や手法について	府中小企業特別 技術指導員 白敷 持治子	110
新商品開発【ものづくり&機器活用】	令和7年9 月 16 日～ 令和8年3 月 27 日	センターが保有する機器を活用しての、新商品開発手法について	当センター 専門幹 荻野 宏子 他	23
小計 2 コース				133
合計 17 コース				431

(機械金属)

(延人数(単位:名))

名 称	開催月日	テ ー マ	講 師	受 講 者
機械製図基礎 (LEVEL00)	令和7年 4月9日、 10日	図面の読み取りに必要な基礎知識の習得	株式会社ラプノーツ 山田 学	24

測定工具基礎	令和7年 4月11日	測定工具の基礎的な使用方法等の基礎知識の習得	府中小企業特別 技術指導員 大柳 邦夫	12
安全衛生	令和7年 4月25日	安全管理・改善の基礎知識の習得	一代技術士事務所 鈴木 孝	8
NCプログラム基礎	令和7年 4月14日、 15日	NC プログラムの作成に関する基礎知識の習得	府中小企業特別 技術指導員 大柳 邦夫	12
NC旋盤基礎	令和7年 4月18日、 21日、22日	NC 旋盤の基本的操作や加工に必要な設定等の基礎知識の習得	府中小企業特別 技術指導員 大柳 邦夫	9
NCフライス基礎	令和7年 4月28日、 5月2日	NC フライスの基本的操作や加工に必要な設定等の基礎知識の習得	府中小企業特別 技術指導員 大柳 邦夫	7
3次元CAM基礎講座	令和7年 4月16日、 17日	三次元 CAM を用いた機械加工プログラムの作成技術の習得	株式会社 Ai ソリ ューションズ 山下 慶介	11
3次元CAD基礎講座	令和7年 4月23日、 24日	三次元 CAD を用いた設計の基礎技術の習得	ヨシカワメイプル株式会社 鈴木 浩貴	8
IoT技術基礎	令和7年、 4月30日	インターネットを活用した遠方監視技術等の学習	舞鶴電脳工作室合同会社 代表社員 町田 秀和	1
金属材料基礎講座	令和7年 4月14日	金属材料の基礎知識の習得	当センター 主任研究員 村山 智之他	2
VRを活用した危険体験学習	令和7年 4月10日	VR を用いた工作機械の基本的操作や事故体験による危険学習	当センター 主任研究員 村山 智之他	3
機械製図講習会 (LEVEL0→1)	令和7年 5月26日、 27日	設計初心者の方を対象に最新 J I S に基づく機械製図に関する基礎知識の習得	株式会社ラプノーツ 山田 学	16
機械製図講習会 (LEVEL2)	令和7年 6月2日、 3日	幾何公差の基本（考え方・種類・使い方等）の習得	株式会社ラプノーツ 山田 学	12
表面粗さ・輪郭形状測定機講習会	令和7年 7月3日	表面粗さ・輪郭形状測定の基礎的事項に関する講義と操作実習。測定技術の基本を学ぶ。	株式会社ミットヨ 横畠 伸明	3
CNC三次元測定機講習会	令和7年 8月6日、 7日、20日、 21日	CNC三次元測定機の基本から自動測定プログラムの作成・実行までの講習及び実技	株式会社ミットヨ 三浦 和昌	24

3軸マシニングセンタ講習会	令和7年 9月5日、 12日、19 日、26日	3軸加工機の基礎的なNCプログラムの作成方法と注意点について	京都職業能力開発短期大学校 藤原 力	16
NC旋盤講習会	令和7年 12月16日、 23日	NC旋盤の基本的操作や加工に必要な設定等の基礎知識の習得	京都職業能力開発短期大学校 神川 謙一	8
新分野進出技術セミナー I	令和7年10 月22日	丹後の地域機械金属業の業種毎における宇宙分野での領域説明	スペースNSプラン 鈴木 直志 大井 成人	23
新分野進出技術セミナー II（先進企業現状解説+マッチング）	令和8年 2月12日	ISOに向けた品質管理体制の構築について	スペースNSプラン 鈴木 直志	14
Excelマクロ・VBA活用セミナー（基礎編）	令和7年 12月10日、 17日	社内業務の改善を目的とした業務システム開発学習に関する基礎知識の習得	京都職業能力開発短期大学校 加畑 満久	7
Excelマクロ・VBA活用セミナー（活用編）	令和7年 1月23日、 30日	システムに関する設計・開発支援の応用技術の習得	京都職業能力開発短期大学校 加畑 満久	8
産業人材育成基礎講座（工業化学） ※ 中丹技術支援室共催	令和7年 7月3日 ～9月4日	工業化学をテーマとして化学の基礎知識から実用的な化学工学までの学習	京都工芸繊維大学 堀内 淳一	306
（その他3コース）	令和7年 9月18日 ～令和8年 1月19日	新任職員向けものづくり基礎研修（京都産業21） 個別研修（株）リーズワークス 峰山高校実習授業への協力（1、3年生）	当センター 主任研究員 村山 智之 他	計 116
合計（高校実習除く） 24 コース				542

（連携支援・その他）

（延人数（単位：名））

名 称	開催月日	テ ー マ	講 師	受 講 者
水分活性測定体験会	令和7年 6月9日 ～7月9日	参加者が、水分活性測定装置を自ら操作して、食品の水分活性を測定	当センター 技師 四方 慎一朗	6
ワクワク子ども体験教室	令和7年10 月4日、5 日	体験しながら化学を学ぶためにレジンの硬化を応用したアクセサリ作りと顕微鏡観察の体験教室を開催	当センター 副主査 鈴木 卓也 他	294
食品品質向上セミナー （健康は食事のひと工夫と意識改革から）	令和7年 12月10日	従来のメニューに減塩の工夫を施す方法やカロリーを低減してヘルシーなメニューを作るコツについて講演	学校法人大和学園 京都栄養医療専門学校 石伏 穰	34
合計 1 コース				334

(2) 公益財団法人京都産業 21 との連携

公益財団法人京都産業 21 北部支援センターとの連携のもと、企業訪問等を通じて把握した企業のニーズや課題に基づき、42 コースの研修を共催した。

(3) 丹後織物工業組合*等関係団体との連携

産地の課題である人材確保、技術継承を目的に、関係機関等と連携して、織物の基礎から製織準備、織機調整等の人材育成研修を実施した。

※大正 10 年に前身となる丹後縮緬同業組合が創立。昭和 38 年に丹後織物工業組合に改組。

(4) 丹後機械工業協同組合*との連携

機械金属事業者のニーズに対応した「新任者向け技術研修」（延べ 44 社 97 名参加）を開催する他、人材育成研修を行うとともに、宇宙分野進出に向けたセミナーを開催し、市場の成長性や今後の見込みの解説を行う等、地域産業の発展に向けた取り組みを実施した。

また、地域機械金属業に向け組合としても ISO の推進を行っており、取り組みに連携する形で「～品質管理の本質を学ぶ～ISO9001 にも対応できる考え方と運用手法」（9 社 14 名参加）を開催し、認証に準じた品質管理体制について具体的な解説を実施した。

また、青年部とも部会への参加や研究会に伴う企業訪問から新分野に関する情報提供といった連携を深め課題やニーズの聞き取り等といった情報収集に努めた。

※丹後溶接組合を基盤とし、昭和 23 年に設立。

(5) TANGO 子ども未来プロジェクト推進協議会との連携

丹後機械工業協同組合及び丹後教育局とともに、将来の丹後の機械産業を担う人材育成を図ることを目的として、TANGO 子ども未来プロジェクト推進協議会に参画し、出前授業、見学受入等を行った。

出前授業受講者数 85 名

(単位：名)

学校名		内 容	受講者数
1	大宮中学校	「丹後の機械金属産業の世界を知ってみよう」	85

(6) 高校の実習受入

地域の高校の実習を延べ 12 日間に渡り受け入れた。（1、3 年生）

高校等実習受入者数（延べ人数） 108 名

(7) 丹後地域加工食品品質向上連絡会での活動

令和元年に商品開発、加工技術の向上及び販路開拓の支援を目的に設置された丹後地域加工食品品質向上連絡会（公益財団法人丹後地域地場産業振興センター他 7 団体で構成）の構成員として、研修事業を実施し、今後の事業計画を検討した。

研修参加者数	34 名
--------	------

(8) 大学との連携

学生インターンを次のとおり受け入れた。

- ・ 京都工芸繊維大学学生（地域創生 Tech Program）：1 名
- ・ 京都女子大学学生（大学コンソーシアム京都の産学連携教育プログラム）：1 名

大学生受入者数	2 名
---------	-----

(9) 府職員【繊維】の募集に向けた取組

繊維職を対象とした、採用説明会を兼ねた当センターのオンライン見学会を 6 回実施した。
また、インターンシップを 1 回実施した。

オンライン見学会参加者数	11 名
インターンシップ参加者数	4 名

2 産業活性化事業

(1) 京都府伝統産業生産基盤支援事業費補助金

伝統と文化のものづくり産業の生産基盤を支えるため、生産設備の新設、増設、更新又は改修及び道具類の購入を支援した。

補助金交付件数	38 件
補助金交付額	17,819 千円

(2) 機料品調達連絡協議会

丹後・西陣の機料品店や産地組合等で構成された協議会において、安定的な調達を目指した共同仕入れ等の仕組みを継続して実施した。

また、スケールメリットを活かすため、新たに博多・桐生産地が当協議会に参画するとともに、さらなる取組の拡充を図る観点から、絹織物を中心とした他産地を訪問、意見交換を実施した。

(3) 丹後機械金属業振興推進チーム（TANGO GEAR）

令和 5 年 2 月に丹後地域の基幹産業である機械金属業の継続的な発展のため、新分野への進出・販路開拓等の検討を目的に、丹後機械工業協同組合、公益財団法人京都産業 21、京丹後市、丹後広域振興局、商工労働観光部産業振興課、織物・機械金属振興センターで設立。

令和 7 年度は 7 回チーム会議を開催し、各機関で取り組みを進めるとともに、「丹後 SPACE VISION ンポジウム 2025」を開催し、宇宙分野の現状や最新の取り組みを講演した。（71 名参加）

(4) 宇宙ビジネス参入研究会

宇宙分野進出に向け、分野への参入活動や情報収集を希望する丹後地域の中小機械金属業を中心に令和 6 年 10 月に設立。（13 社 14 名）

主な活動は、専門家が研究会参加企業へ訪問し、新分野参入に向けた企業の強みや課題等を発見する「企業調査」（2 社）、関連展示会への参加による「参入活動」（10 社 14 名参加）、地域機械金属業が関わる宇宙分野についての解説等を行う「トライアル」、今年度は地域機械金属業（鍛造、鋳造、樹脂加

工、金属切削等)が宇宙分野の中でどのような部品製造等に関わりがあるかを解説する「宇宙産業進出支援技術セミナー」を開催した。(13社23名参加)

(5) 丹後ものづくり産業共創プロジェクト (T・MIC)

地域の基幹産業である織物業と機械金属業が連携し、新たな織機(次世代織機)を製造することを目的に令和2年から活動を開始。

活動の一環として、宇宙環境で着用するシルク織物の衣類・生地及び取扱企業のPR活動に協力した。

3 情報の提供、発信

(1) メールマガジン

公益財団法人京都産業21北部支援センターと連携し、市況調査結果のほか技術情報や各種事業・支援制度などを掲載したメールマガジンを定期的に発行(送信先:647アドレス)し、産地内外の関係業者、支援機関等に発信した。

E-mail oriki-kikakurenkei@pref.kyoto.lg.jp

メールマガジン配信回数	35回
-------------	-----

(2) ホームページでの発信

ホームページを通じて、当センターの事業や管内の織物業や機械金属業の情報をタイムリーに発信し、内外との情報交流を図った。

URL <https://www.pref.kyoto.jp/oriki/>

(3) SNS (Facebook、Instagram、YouTube) での発信

研修への参加及び保有機器の積極的な利活用を促すこと等を目的に、令和5年度にInstagramとYouTubeを開設し、丹後・知恵のものづくりパークが実施する研修やセミナー等の情報、当センターが保有する機器の紹介や研究事業のお知らせなどを配信した。令和7年度からは、それまで不定期であったSNS投稿を、週に発信する回数を定めるなど積極的に行ったことで、SNSリーチ数がR6年度の1.6倍以上に増加した。

また、YouTubeチャンネルでは、織物の生産工程や丹後ちりめんの性質等が分かる動画を配信した。

SNS リーチ数	22,297
(Facebook)	(17,856)
(Instagram)	(4,441)



YouTube 再生回数	12,145回
--------------	---------

(4) 出前授業・所内見学の受入

地元小学生に対して、出前授業を3校、所内見学5校など、延べ310名の出前授業・所内見学を受け入れた。

出前授業・所内見学受入人数	310名
---------------	------

(単位：名)

	学校名	内容	参加人数
1	大宮第一小学校	織物についての見学	84
2	峰山小学校	織物についての見学	17
3	加悦小学校	染色体験	40
4	網野北小学校	織物についての見学	32
5	高龍小学校	染色体験	33
6	網野南小学校	染色体験	19
7	いさなご小学校	織物についての見学	49
8	しんざん小学校	織物についての見学	36

(5) 北近畿経済新聞への研究成果掲載

北近畿経済新聞購読者（発行部数 約 36,000 部（約 3,000 部/回））に研究成果等を周知、事業へ活用を促した。

掲載件数	11 件
------	------

(6) 新聞各社への記者発表及び掲載実績

新聞各社への記者発表や新聞各社からの取材受入による当センター事業の周知を図った。

新聞掲載件数	9 件
プレスリリース件数	12 件

(7) メディアへの出演

京丹後市ケーブルテレビの取材を受入れ当センター事業の周知を図った。

第4 創立120周年記念事業

事業者だけでなく一般住民も対象とし、当センターの120年の歩みを振り返りつつ、当センターが持つ技術や取組を通じてのものづくりの魅力を体感いただくことで、地域に開かれた公設試としての役割・機能・ポテンシャルを地域全体に共有、発信することを目的として、織物・機械金属振興センター創立120周年記念事業を実施した。

(1) 記念式典

日 時 令和7年10月2日（木）14:00～15:00
場 所 丹後・知恵のものづくりパーク B棟 研修室
内 容 知事式辞、来賓祝辞、祝電披露、来賓紹介、
センターロゴマーク発表、センター施設見学
出席者数 約80名

(2) 記念シンポジウム

「120年の歩み そして未来へ～丹後地域産業のチカラを次世代に～」

日 時 令和7年10月2日（木）15:15～16:30
場 所 丹後・知恵のものづくりパーク B棟 研修室
登壇者 織物：臼井 勇人氏（同）たてつなぎ 生地担当／臼井織物(株)織り手
機械金属：錦織 晃氏（株）日進製作所グループ 代表取締役社長
食品：行待 佳樹氏 竹野酒造(有) 杜氏
ファシリテーター：谷口 知弘氏 福知山公立大学地域経営学部 教授
白江 喜之 織物・機械金属振興センター 所長
出席者数 約90名

(3) 記念イベント「織センフェスティバル」

日 時 令和7年10月4日（土）～5日（日）10:00～16:00
場 所 丹後・知恵のものづくりパーク
内 容 ・織セン120年の歩み展
・ワクワク子ども体験教室（センター・計量検定所（1日目のみ））
・織セン探訪スタンプラリー
・センター見学ツアー（丹後オープンファクトリー2025(NeoTAN)として実施）
・VR・ARによるバーチャル宇宙飛行士体験（(株)amulapo実施）
・キッチンカー等賑わいスペース（海洋センターによるアカモク試食も実施）
・子ども向け体験教室 1日目延べ137名 2日目延べ157名
（宇宙飛行士体験）➡延べ79名
・子ども向けの取組が多く、家族連れが多かったが、地域の高齢の方々など地域産業に携わっておられる（おられた）方々も多数来場
来場者数 1日目：約400名 2日目：約300名 計：約700名

おわりに

1 令和 7 年度丹後地域産業の状況

○ 織物業

令和 7 年の丹後ちりめん白生地生産量は、約 10.9 万反（対前年比 82%）であり、新型コロナウイルス感染症の影響がなかった令和元年比では 43%と半分以下の生産量になっている。また、公益財団法人京都産業 21 北部支援センターの調査（令和 8 年 1～3 月）によると、現在の景況感（DI 値）は－53 で、前回（令和 7 年 1～3 月調査）から 7 ポイント改善したものの、エネルギーや原材料価格の高止まりが負担となり、和装を取り巻く構造的な不況等で厳しい状況が続いている。また、従事者の高齢化やこれに伴う技術継承、織機や機料部品の老朽化など産地の生産基盤の衰退が危惧されている。

一方、インテリアやハイファッション市場等新分野への進出、オープンファクトリーや工場へのショールームやカフェの併設等、新たな手法で販路開拓を目指し、高付加価値化への展開に成果が出始めている事業者がある。

引き続き、高度な技術を活かして多種多様な織物素材を提供できるテキスタイル産地へ転換するとともに、足下の生産基盤の維持に向けた人材育成や機料品の安定調達の取組を推進することが重要である。

○ 機械金属業

丹後機械工業協同組合の令和 8 年 3 月の景況調査によると、景況感（DI 値）は二期連続で僅かに上昇傾向となっているが、水準としてはマイナス領域にある。

1 年前比較の受注量増加を示す企業が全体の 16%となっており、3 カ月前との比較では全体の 42%が受注量の減少と回答している。特に 1～4 人では 58%、5～19 人規模の企業では 62%が受注量の減少を回答している。

また、組合としても令和 8 年 2 月末に勃発した中東情勢が地域企業へどのような影響を及ぼすのか注視している状況となっている。

従業員数についても全体の 22%が人員不足と回答しており、規模別にみると 20 人～49 人規模の企業では 27%、5～19 人規模の企業では 28%が人員不足と回答している一方、50 人以上の企業規模でも 25%の企業で人員不足と回答していることから、企業規模によらず人員不足が起こっている。

さらに、鋼材材料および副資材価格もまだ令和 3 年以降上昇を続け、価格が高止まりしており、製造原価の押上は続いている。

このような状況を踏まえ、時代の流れに適応した生産性向上等の経営改革や新分野（宇宙、航空、防衛等）への展開といった各企業の取り組みがより重要となり、雇用については少子化に加え若者の地域外への流出等により、地域企業における人材確保・担い手育成等の課題が深刻化している一方、留学生の受け入れやオープンファクトリーへの参加など課題解決に向けた独自の取組も活発になっている。

○ その他の地域産業

丹後地域の製造業においては、京都北都信用金庫の景況調査によると、令和 8 年 3 月調査での景況感（DI 値）は－40.0 であり、前年 3 月調査での－44.1 より上昇した。前年同月から改善という見方ができる一方、最近の物価高騰によって仕入価格が上昇していることから、引き続き厳しい状況にあるとい

う見方もできる。引き続き、流動する景況に対応していくために新たな商品の研究開発を行う地域企業に対する技術支援が求められる。

京丹後市地域では、京丹後産飲料乾杯推進協議会が発足し、また、京丹後産飲料による乾杯条例の制定がなされ、地域の食品に対する注目が集まっている。

2 令和7年度当センターの取り組みについて

丹後地域はものづくり産業として「織物業」や「機械金属業」が根付いており、「京都府総合計画（令和4年12月改定）」では、丹後の強みである「ものづくりの伝統技術」、「魅力あふれる歴史文化」を生かした地域づくりを戦略的に取り組むこととしている。

当センターでは、総合産地化・高付加価値化に向けた新技術・新商品開発や新分野への進出や新産業の創出を目指した取組など、府北部地域のものづくり産業を公益財団法人京都産業21北部支援センターと一体となって支援し、総合的な活性化対策を推進してきた。

○ シルクテキスタイルの世界的な産地の形成に係る取組（産業創造リーディングゾーン）

織物業においては、世界から注目されるテキスタイル産地の形成を目指し、販路開拓・新商品開発の取組を支援するとともに、生産基盤の維持や新商品開発に関する人材育成研修の実施、織機等の生産設備の更新や改修の支援に取組んできた。西陣織、京友禅、丹後織物の三産地が連携する「シルクテキスタイル・グローバル推進コンソーシアム」の取組では、インテリア市場、ハイファッション市場へ進出するための販路開拓支援等を実施した。人材育成に関しては、デザインにおけるAIの利活用や、製織の過程等で発生する不要な糸くずのリサイクルなど、時代に即した知識・技術をテーマとした研修を新たに実施した。

また、「クリエイター・イン・レジデンス（CIR）事業」では、欧州のインテリアメーカーと丹後・西陣の事業者の連携を強化し、織物素材の開発及び提案を推進する態勢を整えた。加えて、丹後・西陣の機料品店や産地組合等で組織した「機料品調達連絡協議会」ではスケールメリットを生かすため新たに博多・桐生産地が参画し、他産地との意見交換も実施した。

さらに、新技術、新商品開発などを目指し、丹後織物工業組合などと計5件の共同研究に取り組んだ。

○ 機械金属業に向けた新分野（宇宙産業）等への取組

機械金属業においては、事業者の慢性的な人材不足への対応のため、就労者の技術の習得やスキルに応じた技術力向上を目的としたセミナー・講習会等を開催し、特に4月初旬から、新任者を対象とした技術研修で機械金属に必要な基礎知識や実習を通じて即戦力に向けた育成を行ってきた。

加えて、将来の丹後機械金属業を見据えた取組として令和5年2月に府関係機関を中心に設立した「丹後機械金属業振興推進チーム（TANGO GEAR）」では、推進チーム会議（年7回）に参画し、業界や各機関と連携しながら、宇宙事業への進出に向けた取組を進めた。

当センターでも、地域機械金属業に対して宇宙分野への進出支援を目的に情報提供等を行う「丹後宇宙ビジネス参入研究会（令和6年10月に設置）」の事務局として、宇宙分野の受注を目指す企業の強みを分析する「企業調査」、先進企業への視察及び意見交換を行う「参入活動」、新分野の業界で取り扱われる材料や品質管理等をテーマとした研修等を実施する「勉強会」を行いニーズに応じた活動を進めた。

また、地域の高校と連携した実習授業をはじめ、出前授業や施設開放を積極的に行い、時代を担う人材確保に努めた。

さらに、地域機械金属業のIoT人材育成及び技術の普及を目的に、研究開発事業で取り組んだスモールIoTを用いて地域企業が有する工作機械の「稼働率の見える化」に向けた支援に取り組んでいる。

令和7年度には地域機械金属業（1企業）に対して人材育成とシステム整備を進めた。

○ 化学・食品分野への支援に係る取組

織物業や機械金属業以外の地域産業においては、化学の専門的情報、試験技術及び分析機器を使って、丹後地域を支える企業に対して技術相談、依頼試験、機器貸付及び研究を通じて技術的支援を行ってき

た。

令和7年度には、化学分野において、当センターの技術的支援を受けた、丹後地域の化粧品製造業者のシルクを用いたフェイスパウダーの商品化がなされ、販売が開始された。

また、食品分野において、当センターは、新規導入した水分活性測定装置について、その活用方法を周知し利用を促進するために体験会を開催するとともに、大和学園京都栄養医療専門学校から講師を招いて公益財団法人丹後地域地場産業振興センターと共催で、「健康は食事のひと工夫と意識改革から」をテーマに研修を開催した。さらに、府中小企業特別技術指導員を食品製造現場に派遣し、異物混入事案の再発防止や新商品開発に対応した。

沿 革

明治 38 年 9 月	「京都府織物試験場」の設置が決定
明治 39 年 2 月	中郡吉原村（現 京丹後市）に「京都府織物試験場」を開設、業務開始
昭和 2 年 3 月	奥丹後大震災により建物全壊
昭和 3 年 8 月	建物及び諸機械・設備の復興が完了、業務再開
昭和 31 年 10 月	与謝郡野田川町（現 与謝野町）に技術員駐在所を設置
昭和 40 年 11 月	創立 60 周年記念事業実施
昭和 41 年 6 月	組織変更（振興課、技術課に加え経営指導課を設置、総合指導機関に再編）
昭和 43 年 7 月	中郡峰山町丹波（現 京丹後市）に改築移転 組織変更（技術課（技術指導係、試験研究係）、経営課（総務係、経営指導係）の 2 課 4 係制に再編）
昭和 43 年 9 月	皇太子同妃殿下（現上皇上皇后両陛下）が当場を御視察
昭和 44 年 12 月	「丹後機業振興対策 5 力年計画」を策定
昭和 45 年 8 月	組織変更（丹後機業振興対策室を設置、1 室 2 課 4 係制に再編）
昭和 47 年 6 月	名称を「京都府織物指導所」に変更、染色棟を竣工 組織変更（技術課の 2 係制を廃止、主任研究員制に再編） 技術員駐在所を廃止、加悦谷分室を設置
昭和 50 年 6 月	組織変更（丹後機業振興対策室を廃止、2 課 1 分室制に再編）
昭和 50 年 11 月	創立 70 周年記念事業実施
昭和 52 年 11 月	与謝郡加悦町算所（現 与謝野町）に加悦谷分室を改築移転
昭和 60 年 10 月	創立 80 周年記念事業実施
平成 4 年 8 月	加悦谷分室 20 周年記念事業実施
平成 7 年 8 月	創立 90 周年記念事業実施
平成 12 年 3 月	機械金属試験室を増築
平成 12 年 4 月	名称を「京都府織物・機械金属振興センター」に変更 組織変更（機械金属課を設置、経営課、織物課、加悦谷分室の 3 課 1 分室制に再 編）
平成 17 年 4 月	組織変更（加悦谷分室を本所に統合、経営室、織物室、機械金属室の 3 室制に再編）
平成 17 年 11 月	創立 100 周年記念事業実施
平成 20 年 4 月	組織変更（経営支援業務を（公財）京都産業 21 北部支援センターに移管、企画連 携課、技術支援課の 2 課制に再編）
平成 20 年 9 月	京丹後市峰山町荒山（丹後・知恵のものづくりパーク）に移転
平成 20 年 10 月	丹後・知恵のものづくりパークオープニング式典開催
平成 27 年 6 月	創立 110 周年記念事業実施
平成 31 年 3 月	丹後・知恵のものづくりパーク機能強化（人材育成・新産業創出）整備実施
令和 7 年 10 月	創立 120 周年記念事業実施

**令和7年度 業務
概要報告書**

令和8年7月

京都府織物・機械金属振興センター

〒627-0004 京都府京丹後市峰山町荒山 225

(丹後・知恵のものづくりパーク内)

TEL:0772-62-7400

FAX:0772-62-5240